

①

だいこんおぼけ

脚本・画 かわぐちともこ

ある日 はたけのだいこんを  
いっぱいつんだトラックから  
一本のだいこんが おちました。

すると そこに  
ひゆる ひゆる ひゆる

ーぬくー

②

おばけの 子どもがやってきました。

「あれ おおきなおばけが  
こんなところで ねている」

「もしもし どうしたの」  
大きな声でよんでも へんじがありません。

そこで おばけの子は、

― ぬきながら ―

「おーい おねえちゃん おにいちゃん」  
ときようだいをよびました。

「こんなところに みどりのけをはやした

おぼけが ねているよ。」

「なにいつてるの これ だいこんっていうの」

「そうだよ かたちはにているけど やさいの  
なかまだよ。」

「なーんだ」

「うちにもってかえろう」「うん そうしよう」

「重いね うんとどっこいしょ

うんとどっこいしょ うんとどっこいしょ

「あっ 川だ どうしよう」

ーぬくー

「だいじょうぶ だいじょうぶ」

だいこんは、カーンになって

「えっさか ほいさか ほいさっさ

すいーすいー

だいこんカーンでひとはしり」

と川をわたってしまいました。

ーぬきながらー

「すいー」

⑤

もりの中にきました。

「まあーくらいね」

「だいじょうぶ　だいじょうぶ

おぼけだから　だいじょうぶ」

「でも　ちょうとこわーい」

すると　だいこんおぼけの体が  
ぽつとあかるくなりました。

―ぬく―

⑥

「あっ！ あめだ」

「ぬれちやう ぬれちやう」

「だいじょうぶ だいじょうぶ」

そういうと だいこんおぼけが

大きなかさになって ぬれないように

してくれました。

「だいこんおぼけさん なんでもできるんだね」

ー ぬく ー

うちに かえると

「おかあーさーん、ただいま。おなかすいたよ。」  
だいこんおぼけは、あれあれ ねています。

「つかれたのかな ねちやったね。」

（ちよつと間）

「まあ 大きなおいしそうなだいこん！」

おかあさんは、だいこんをみつけると

大きな おなべで おでんを

つくって くれました。

ーぬくー

みんなでおいしく 食べました。  
おなか いっぱいになりました。

すると みんなのあたまに  
によき によき によき  
すこし みどりの葉が できました。

「あれあれ、だいこんおばけになっちゃった！」

（ おわり ）